

## 指示の技術 「簡明に」

指示はどれくらいの長さが適切なのでしょうか。

「15秒以内がいい」という一つの目安があります。

しかし、前号の「一時に一事」の原則を使うとすると15秒は長すぎることに気がつきます。

15秒もの間指示するとしたら、その意味内容は3つにも4つにもなります。

私の経験で言うと分かりやすい指示は次くらいが目安です。

10秒未満。文字数30文字以内。

この範囲の指示は子どもに分かりやすく、教室の混乱を避けることができます。

ところで、これを読んでなるほどと思った方。

実際に、自分の指示や発問をストップウォッチ片手に測ってみて下さい。ばかばかしいと思ってもです。

すると驚くことが分かります。やってみて初めて分かるのです。

「10秒未満。文字数30文字以内。」ということを知っているというのは、技術レベルとして知っているに過ぎません。

実際それが授業の中で使えるというのは、また別の問題です。これを技能レベルといいます。指示が短い方がいいのは、たいていの教師はよく分かっているはずなのです。しかし、できないのです。そんなことは初歩の初歩だというベテラン教師だってできていないことが多いのです。私は、学生時代から「簡明の原則」というのを知ってはいました。しかし、未だにできるのは全体の1割程度です。

さて、それでは技能レベルを高めるにはどうすればいいのでしょうか。

いくつかの私のつたない修行の方法をご紹介します。

職員会議での発言を短くする。

教師にとって、すべてが修行の場になります。

「それでは、職員会議を始めさせていただきますと思います。」

「職員会議を始めます。」

分かり切っていることは復唱しない。(参加者に失礼。復唱しなければ理解できないのか)

人の発言をまとめない。(発言者に失礼。まとめなければ分からない話なのか)

「これで職員会議を終わります」

「これで終わります」

それで、こういうことを意識はしているのです。

でも、皆さんよくご存じのように、私はできていないのです。

ですから、やはり発言を簡明にするというのはなかなか難しいことなのです。(と最後は自分の力のなさを弁明することになってしまった！)